

# 環境活動レポート



環境省

エコアクション21

認証番号0010756

活動期間:2018年6月21日～2019年 6月20日

作成日:2019年8月20日

 **池田建設株式会社**

# 目 次

1. 事業活動の概要
2. 環境方針
3. EA21実施体制組織図
4. 環境目標と実績
5. 環境活動の取組状況、取組評価
6. 環境関連法規等の取りまとめ表・遵守状況の確認
7. 代表者による全体の評価と見直し
8. 活動事例

## 1. 事業活動の概要

### ■事業者名及び代表者

池田建設株式会社 代表取締役 池田 章

### ■所在地

本 社 〒381-2213長野県長野市広田77番地  
資材倉庫 //

### ■環境保全関係の責任者及び担当者連絡先(電話番号等)

環境管理責任者 山岸 薫 連絡先:026-284-2128  
環境管理事務局 山岸 薫 連絡先:026-284-2128

### ■事業活動の内容

総合建設業  
土木、建築、大工、とび・土工、石、屋根、管、タイル・れんが・ブロック、舗装  
鋼構造物、しゅんせつ、塗装、内装仕上、造園、水道施設

### ■事業の規模

資本金 4500万円  
売上高 56850万円(平成30年6月21日～平成31年6月20日)  
従業員数 25名  
床面積 833㎡

### ■事業年度 6月21日～6月20日

### ■環境への取り組み

平成29年5月19日認定 ZEHビルダー登録認定 SII-29ZH05190101  
平成29年3月30日認定 長野市エコサークルGOLDランク

 池田建設株式会社  
<http://ikeda-ikeya.jp>

# 池田建設株式会社

## 環 境 方 針

池田建設株式会社は、「経営理念」に基づき、地域で必要とされる企業に向け、お客様に喜ばれる仕事をすると共に、環境負荷の低減・改善に積極的に取り組む事により、地球環境保全を推進し、地域から信用される企業を目指します。

1. 事業活動に関する環境関連法規等を遵守する
2. 事業活動に使用する電力・化石燃料等の節約を推進する
3. 事業活動に使用する資材、材料等は環境に配慮した資材を購入する
4. 事務所及び現場の節水に努め、水の使用量を削減する
5. 環境負荷の少ない設計施工を目指しゼロエネルギー製品の普及
6. この環境方針を全社員に周知し、環境保全意識の向上をする

制定日:平成26年12月15日

2版:平成29年 7月10日

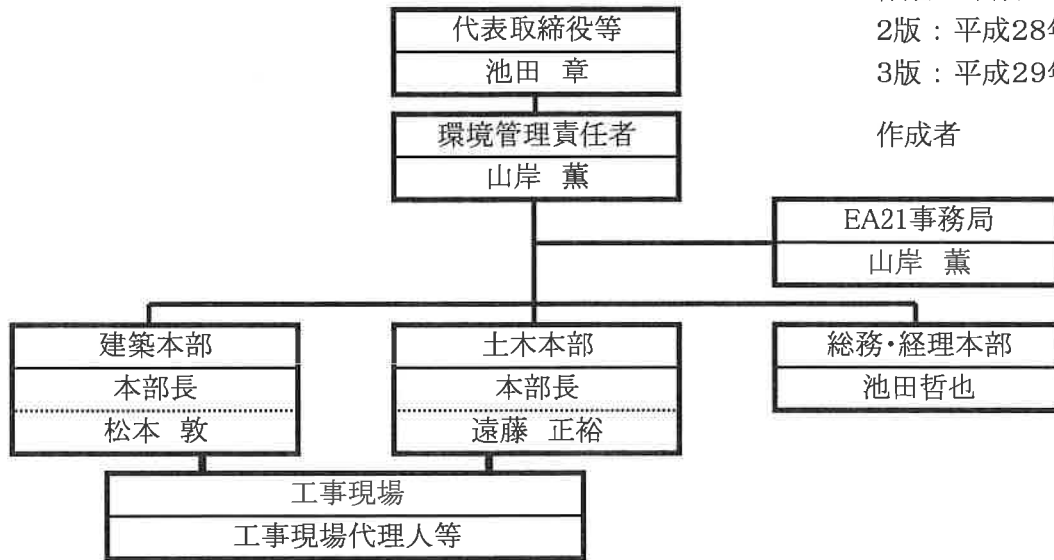
3版:平成30年 1月30日

代表取締役 池田 章

### 3 実施体制組織図

作成：平成27年2月18日  
 2版：平成28年2月1日  
 3版：平成29年8月30日

作成者 山岸 薫



※全従業員は、当社に構築された環境経営システムを理解し、策定された環境方針の下、環境目標の達成に向けて、環境活動計画に基づき、一致協力して環境取り組みを行う。

#### 役割・責任及び権限一覧

担 当	権 限 及 び 実 行 内 容
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムに関するすべての責任と運用についての権限を持つ</li> <li>環境経営システムの構築・運用・管理に必要な資源を用意する (資源には、人材・設備・費用・時間・専門的な技能・技術を含む)</li> <li>環境管理責任者を任命する</li> <li>環境方針の策定/見直し及び従業員への周知を行う</li> <li>全体の評価と見直しを行い、次期活動を支持する。</li> </ul>
管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムを構築し、実施し、管理する</li> <li>作成された環境への負荷及び取組の自己チェックを確認し承認する</li> <li>法規制等の遵守状況をチェックする</li> <li>環境方針及び自己チェック等に基づき環境目標を設定し、環境活動計画を承認する</li> <li>環境活動の取組状況を監視/確認し、環境目標の達成(状況)を評価する</li> <li>問題点の是正、予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置を行う</li> <li>活動の取り組み及び結果を代表者へ報告する</li> <li>EA21に関する運用管理の体制を構築し、各実行責任者を任命する</li> </ul>
各部門長及び 現場代理人	<ul style="list-style-type: none"> <li>責任範囲内の環境目標及び活動計画の作成/実施と事務局への達成状況の報告</li> <li>責任範囲内の問題点の発見、是正及び予防処置</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システム運営のすべての事務処理を行う</li> <li>環境負荷及び取組の自己チェックを作成し、環境管理責任者へ報告する</li> <li>関連法規等の取りまとめ及び遵守状況チェックリストを作成し、環境管理責任者へ報告する</li> <li>環境活動計画並びに運用手順書を作成し、実施結果を集計し、環境管理責任者へ報告する</li> <li>文書及び記録の管理と保管</li> <li>外部コミュニケーション窓口及び内部コミュニケーション運営管理</li> <li>従業員及び関係者への教育訓練計画と実施</li> <li>特定された緊急事態に対する手順書の作成及びテスト・訓練と記録</li> </ul>

#### 4. 環境目標と実績

指標	環境方針	取組項目	単位	基準値 (平成28年度)	平成29年 度実績	平成30年度		令和1年度 目標
						目標	実績・評価	
二酸化炭素排出量	事務所での電気使用量の削減	電力消費量の削減	Kwh	33,020	32,484	32,029	45,068 ×	31,369
	自動車燃料及び重機燃料の削減	ガソリンの消費量の削減	ℓ	2,140	2,886	2,076	1,739 ○	2,033
		軽油消費量の削減	ℓ	1,979	2,836	1,920	3,211 ×	1,880
		灯油消費量の削減	ℓ	380	97	369	278 ○	361
	二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)			17,343	17,157	16,823	23,599 ×	16,476
廃棄物排出量	建設リサイクルを推進し、廃棄物の削減	分別及びリサイクルの推進	t	2,060.0	1,706.0	1,998.2	1,704 ○	1,957.0
水排出量	建設現場での水の汚染、汚濁の防止、事業所での節水	事業所利用水の節水	m <sup>3</sup>	210	116	204	114 ○	200
		オイル吸着材の不設置・管理	件	0	0	3以下	0 ○	3以下
環境に配慮した施工の推進	環境配慮施工の拡大	件	1	2	3	4 ○	5	
環境活動の社会貢献の推進	地域の清掃路面維持の参加	件	13	13	6	18 ○	7	
事務用品グリーン購入の推進	グリーン商品の購入	積極的に推進				継続	継続	

●二酸化炭素排出係数は2013年度中部電力㈱の0.516kg-CO<sub>2</sub>を使用しました。

●グリーン用品購入の項目は対象品すべてを実施し積極的な推進を図っている

計画承認
池田

## 平成30年度環境活動計画兼実績集計表

頁:1/2  
 作成日 令和1年8月20日  
 報告日 2019年8月30日

承認	作成
池田	山岸

取組項目と計画	H28年度 実績	H29年度 実績	H30年度 実績	H31年度 実績	平成30年						平成31年						令和元年						年合計	責任部門 責任者
					7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
電力消費量 (kWh)	計画	35,161	32,690	32,029	31,369	2,406	3,099	2,085	1,797	2,491	4,240	2,789	3,388	3,097	2,644	2,017	1,977	32,029	総務経理部 池田哲也					
	実績	33,020	32,484	45,068		2,335	3,675	2,519	1,982	2,860	4,383	5,679	6,051	5,977	4,840	2,690	2,077	45,068						
	累計					2,000	5,675	8,194	10,176	13,036	17,419	23,098	29,149	35,126	39,966	42,656	44,733	-						
	評価	○	○	×																×				
ガソリン削減量の削減(ℓ)	計画	2,154	2,119	2,076	2,033	180.4	116.4	140.7	131.9	106.7	248.3	242.5	252.2	199.8	185.3	160.1	111.6	2,076	土木本部 山岸薫					
	実績	2,140	2,886	1,739		153.8	95.4	128.1	87.2	70.4	257.7	218.4	207.8	167.7	121.4	138.4	93.2	1,739						
	累計					153.8	249.2	377.3	464.5	534.9	792.6	1,011.0	1,218.8	1,386.5	1,507.9	1,646.3	1,739.5	-						
	評価	○	×	○																○				
軽油消費量の削減(ℓ)	計画	2,408	1,959	1,920	1,880	20.0	80.5	167.0	38.0	37.0	113.0	218.0	160.0	529.9	260.0	180.0	117.0	1,920	土木本部 山岸薫					
	実績	1,979	2,836	3,211		82.1	101.4	190.1	17.8	129.6	91.5	1,113.2	653.9	515.7	254.6	60.6	0.0	3,211						
	累計					82.1	183.5	373.6	391.4	521.0	612.5	1,725.7	2,379.6	2,895.3	3,150.0	3,210.6	3,210.6	-						
	評価	○	×	×																×				
灯油消費量の削減(ℓ)	計画	485	376	369	361	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	140.0	140.0	69.0	0.0	0.0	0.0	369	土木本部 山岸薫					
	実績	380	97	278		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	126.0	92.0	60.0	0.0	0.0	0.0	278						
	累計					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	126.0	218.0	278.0	278.0	278.0	278.0	-						
	評価	○	○	○																○				
CO2排出 量の削減	0.516	電力	17,038	16,762	23,255	0	1,205	1,896	1,300	1,023	1,476	2,262	2,930	3,122	3,084	2,497	1,388	1,072	23,255	土木本部 山岸薫				
	0.0671	ガソリン	144	194	117	0	10	6	9	6	5	17	15	14	11	8	9	6	117					
	0.0686	軽油	136	195	220	0	6	7	13	1	9	6	76	45	35	17	4	0	220					
	0.0679	灯油	26	7	19	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	5	0	7					
	CO2 排出量	計画	18,486	17,170	16,823	16,476	980	1,433	1,237	772	1,343	2,264	1,258	1,010	2,611	2,301	1,184	951	17,343					
		実績	17,343	17,157	23,611	0	1,221	1,910	1,321	1,030	1,489	2,285	3,023	3,181	3,131	2,523	1,406	1,078	23,599					
評価	○	○	×																×					
活動の コメント	計画策定時					1/4期			2/4期			3/4期			年間活動化結果									
	平成28年1月より社屋移転・業務内容の変更をし基準値を平成28年1月～平成28年12月の数値として再設定した					社員のCO2排出抑制の意識が高まってきたが事業量の増加に伴い、数値は上昇。 電気使用量の削減が夏季異常気象のため使用量が増加した。			事業量が増加、遠い現場など移動距離が多かったため軽油の増加につながった。			年度末繁忙期で、3月納期の仕事除雪作業などが使用量の増加につながった。			社員のCO2排出抑制の意識は高まりアイドリングストップ空調温度の徹底など取り組んでいる。 今後の異常気象にどう対処していくかなど課題はあるが来季も社内全体で、CO2削減に取り組んでいく。									

平成30年度環境活動計画兼集計表

取組項目と計画		H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	平成30年						平成31年						令和元年		年合計	責任部門 責任者
		基準値	実績	実績	実績	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月				
【建設現場】 分別及びリサイクル の推進 (㎡)	計画	2050.29	2039.00	1998.20	1957.00	34.30	90.17	64.69	40.18	109.77	246.05	194.04	812.10	284.13	70.29	23.76	28.71	1998.20	土木本部 遠藤正裕		
	実績	2060.00	1706.00	1703.60		18.40	56.00	22.00	21.00	72.00	183.60	166.10	786.00	314.50	32.00	19.00	13.00	1703.60			
	評価	△	○	○																○	
事業所利用水の節水 (単位:㎡)	計画	170.3	208.0	204.0	200.0	30.9	0.0	36.8	0.0	31.4	0.0	37.6	0.0	33.7	0.0	33.7	0.0	204.0	総務経理部 池田哲也		
	実績	210.0	116.0	114.0		19.0	0.0	19.0	0.0	19.0	0.0	19.0	0.0	19.0	0.0	19.0	0.0	114.0			
	評価	×	○	○																○	
【建設現場】 オイル吸 着材の設置と適正管理 3件以下にする	計画	3.0	3.0	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	土木本部 遠藤正裕		
	実績	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	評価	○	○	○																○	
【建設現場】 化学物質 使用量の削減(Kg)	計画																				
	実績																				
	評価																				
【建設現場】 環境配慮 施工の拡大 3件受注する	計画	0	1	3	5	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	3	建築本部 松本敦		
	実績	1	2	4				1	1					1	1			4			
	評価	○	○	○																○	
グリーン商品の 積極的購入 60%に拡大する	計画																				
	実績																				
	評価																				
地域の清掃路面維持 に参加する 5回以上参加する	計画	11	5	6	7	0	0	1	0	1	3	3	3	1	0	0	1	13	土木本部 山岸薫		
	実績	13	13	18		1	0	1	1	1	4	4	3	0	0	2	1	18			
	評価	○	○	○																○	
活動 の コ メ ン ト	計画策定時					1/4期			2/4期			3/4期			年間活動化結果						
		平成28年1月より社屋移転・業務内容の 変更をし基準値を平成28年1月～平成28年 12月の数値として再設定した 化学物質は自社保有を廃止したので目標から除外 グリーン製品も一定の成果が出ているので 推進継続努力とする				社員意識の向上が数値に 表れている 0エネルギー住宅及び健康住宅 認知向上が伺えた			近隣美化活動と共に自主的に 会社周辺水路掃除の取り組み			継続して地域への除雪ボラン ティアが実施できた			建設分別リサイクルについては施工量の増はあるが 工期終盤に増えていく事が予想される 上下水道は社員が現場へ分散した結果の減少が 考えられる オイル吸着剤・化学物質・グリーン商品は一定の 成果が表れたので維持していく 近隣ボランティア活動へのさらなる取組を実施した						

## 5. 環境活動の取組結果の評価

取組項目		評価	評価と次年度の取組
電力使用量の削減	・不要時の消灯	○	周知し概ね取組ができた クールビズ、ウォームビズの周知を徹底する 良評価は引き続き、スイッチOFF活動は更なる 啓発を進める
	・機械設備・OA機器などのスイッチオフ	○	
	・エアコンの温度管理(夏季28℃±1℃)	○	
	・クールビズ、ウォームビズの推奨	○	
	・節電型家電の購入	○	
冷暖自 房動 車燃 料・ 重 削機 減	・エコドライブの実施	○	各車両・重機に注意喚起を周知し取組ができた 引き続き取り組む
	・暖気運転・アイドリングストップ	○	
	・社有車の運転記録管理・点検実施	○	
	・積載量の記録管理	○	
	・ストーブの温度管理(冬季20℃±1℃)	○	
	・省エネ型機器の導入	△	
廃棄物の削減	・社内ペーパーレスの推進	○	周知し取り組みが浸透し倉庫内の整理し余剰 資材の減少できた
	・余剰資材の減少	○	
	・建設廃棄物を分別し、リサイクルの徹底	○	
水使用量の削減 汚濁水の防止	・給湯室での水の節水	○	周知し概ね取組ができた 既存物が利用できる為、節電型の購入を見 送った。 河川工事及び流出予想工事での設置が徹底 できた
	・節水型トイレの導入	△	
	・オイル吸着材の設置	○	
	・防油堤の設置	○	
環境配慮資材の購入		○	グリーン商品、ペットボトル再生製品の購入を 優先継続実践していく
環境活動の推進	・会社周辺の清掃ボランティアの実施	○	ボランティア活動を18回出来た。 継続していく 周辺水路掃除ボランティア活動も実施
	・会社周辺の除雪ボランティア	○	



## 6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

当社の企業活動に伴い適用される環境関連法規等は、下記一覧の通りです

法規制等の名称	該当する要求事項	遵守確認
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の保管・運搬・処分の委託、管理票の運用	遵守
建設リサイクル法	対象建設工事の届出、再資源化等の実施・報告・記録	遵守
建設副産物適正処理	対象工事における指定副産物に係る搬出量と再資源化施設への搬出量等の計画書の作成	遵守
建設機械に関する技術指針、排出ガス対策型建設機械指定制度	排ガス対策型建設機械に使用義務・届出	遵守
オフロード法	特定特殊自動車への排出ガス規制・適合することの確認	遵守
大気汚染防止法	石綿等除去作業における作業計画書の作成・提出	遵守
騒音規制法	対象特定施設の届出・規制値の順守	遵守
振動規制法	対象特定建設作業の届出、規制値の順守	遵守
低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程	建設機械の型式指定義務・届出	遵守
水質汚濁防止法	公共用水域の環境保全・届出	遵守
家電リサイクル法	解体工事及び事業所内での家電製品の廃棄	遵守
自動車リサイクル法	社用車等、廃車時の届出	遵守
フロン排出抑制法	フロン使用機器の点検、漏えい時の報告	遵守

《遵守確認》 令和元年 7月22日 遵守確認を行い、確認いたしました。

### 違反、訴訟の有無

環境管理責任者が中心となり法規制等の順守状況についてチェックを行い、現在及び過去3年間問題がないことを確認しました。関連機関・地域住民からの苦情は0件でした。現場開始前の再発防止策、社内教育の実施などで引き続き苦情0件に努めます。

## 7. 代表者による全体の評価と見直し

新社屋に移転し3年が過ぎ、社内の固定負荷もおおよそ把握できて参りました。

社業が広がるに従い経費も増大してきている課題に対して更に様々なコストダウンを推進していかなければなりません、そのきっかけとして現在取り組んでいる環境負荷問題を足がかりとしていかなければなりません。

数値的には物足りない結果になっておりますが社内の方向性は確実に意識されているように感じます。

新たにOffice365を導入し社内書類をクラウド上で保管し始めペーパーレスも期待できます。

また書類の共有化や安全に保管する事も目的になります

様々なシステムを活用し環境対策のさきがけとなるよう更なる企業努力を継続します

## 8. 環境活動計画の実施状況

### ☆ 電気使用量の削減

表示して意識の向上



表示して意識の向上



### ☆ 建設リサイクル・廃棄物削減

社内使用物や近隣の皆様へ作成物の無償提供に建設現場から発生した廃材を利用してリサイクル活動を実施しています



・ ボランティア活動

近隣除雪



会社周辺清掃



・ ZEH (ゼロエネルギーハウス) への取り組みについて

ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスとは、年間の1次エネルギー消費量がネットでゼロとなる住宅の事で、消費のムダを省く「省エネルギー」と、太陽光発電などでエネルギーを創り出す「創エネルギー」を組み合わせによって成り立ちます。また「省エネルギー」と「創エネルギー」の状態をリアルタイムで見ることができる「HEMS(ホーム・エネルギー・マネジメント・システム)を組み合わせ活用します。

政府は「2020年までにZEHを標準的な住宅にする」という目標を発表しており、住宅については、2020年までに標準的な新築住宅で、2030年までに新築住宅の平均でZEHを実現することを目指すと言われています。

具体的には

- ①高い断熱性能 ②高効率の設備機器 ③創エネルギー(太陽光発電等)の3つを組み合わせたものになります。

高断熱の建物と、高効率機器で消費エネルギーを削減し、太陽光発電などの創エネルギーで、年間の消費エネルギーを「ゼロ」にしていく、ということになります。

池田建設でも、ZEHビルダー登録を平成29年5月に行いました。

【1】ZEHの周知・普及に向けた具体策

ホームページでのZEH案内と、名刺へのZEHマークの記載にて周知を図る。施主様へは太陽光発電を使用したランニングコストを比較し、ZEH仕様の住宅の提案をする。

【2】ZEHのコストダウンに向けた具体策

センターダクト換気を用いた第一種換気方法で、エアコンを1台へ制限する。また、建築労務費の見直しと、作業効率の改善を図り、コストダウンにつなげる。

【3】その他の取り組み

ZEHセミナーへの参加、社内勉強会の開催

